

漁海況旬報 ちば

No. 14 - 11

平成14年4月19日発行
千葉県水産情報通信センター
千葉県水産研究センター

定置網へのハリセンボンの大量入網

今年1月頃から、県内の各定置網にハリセンボン *Diodon holocanthus* (図1) が大量に入網し始めました。漁業者の方々も、今まで経験したことのないことだそうです。現在も量こそ減少しましたが、散発的に入網しています。本報では、その状況について他県の情報を含めて報告します。

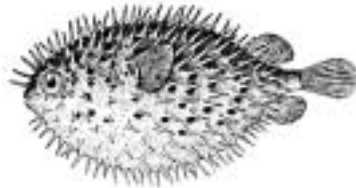


図1 ハリセンボン
(「新日本動物図鑑 下巻」北隆館)

1. ハリセンボンについて

体を覆った棘が特徴的なハリセンボンの仲間は、世界中の温帯や熱帯海域に生息し、日本には7種のハリセンボン科の魚が分布しています。ハリセンボンは本州中部以南に見られ、4月～8月頃に南西諸島や台湾海域で産卵します。稚魚は黒潮や対馬暖流のって日本沿岸に来遊し、成魚の全長は40cmに達します。

敵におそわれそうになると大量の水を飲み込んで体をふくらませ、長い棘を立てて敵を威嚇します。肉は無毒で食材として利用している地域もあり、沖縄地方では「アバサー」と呼ばれ、刺身や煮付け、みそ仕立ての「アバサー汁」として賞味されます。

2. 県内の状況

14年1月24日に、房州ちくろ漁協白子瀬戸支所の定置網に大量のハリセンボンが入ったとの情報が寄せられました。漁港では、大量のハリセンボンが水揚げされていました(写真1)。当日は沖網だけで14トンを超える入網がありました。これに先立つ19日に鴨川の定置網に大量入網したのを皮切りに、外房では和田、内房では波左間や富山、保田などの定置網で相次いで入網が確認されています。



写真1 ハリセンボンだらけのダンベ

1月24日に入網したハリセンボンは、全長10cm台前半と12cm台後半に2つの峰がある体長組成を示しました(図2)。2月に富山町の定置網に入網したハリセンボンの体長組成も同様でした。4月の体長組成でも12cm台後半には峰がありました。これらから発生時期の異なる複数のグループが来遊していると推測されます。

3. 他県の情報

太平洋岸の岩手県から沖縄県までの聞き取りをおこなったところ、他県でも大量来遊が起きていました。沖縄や奄美諸島ではすでに3年ほど前から大量来遊が続いています。鹿児島(薩南沿岸)高知は一昨年、徳島～静岡では主に昨年、神奈川・千葉では今年に入ってから大量来遊が見られ、来遊の範囲が西から東へ年々拡大しています(表

1)。しかし、茨城以北では「大量」といえる来遊はなく、なかでも岩手、宮城では来遊そのものが確認されていません。このことは黒潮が千葉県犬吠埼沖で流れを東向きに変えるため、ハリセンボンが沖合へ運ばれることを示しています。

表1 日本太平洋岸各県における平成10～14年のハリセンボンの沿岸への来遊状況。平成14年は4月中旬までの状況。

年(暦年)	県名																
	沖縄	鹿児島	宮崎	大分	愛媛	高知	徳島	和歌山	三重	愛知	静岡	神奈川	千葉	茨城	福島	宮城	岩手
平成14	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	△		
13	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	
12	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
11	◎	◎															
10																	

◎:大量に来遊、漁獲した場合は1回で数10トン～数100トンあった。
○:多く来遊、漁獲した場合は1回で1トン～数10キロの漁獲があった。
△:姿をみかける、漁獲した場合でも混獲がみられる程度。
空欄:沿岸への来遊なし

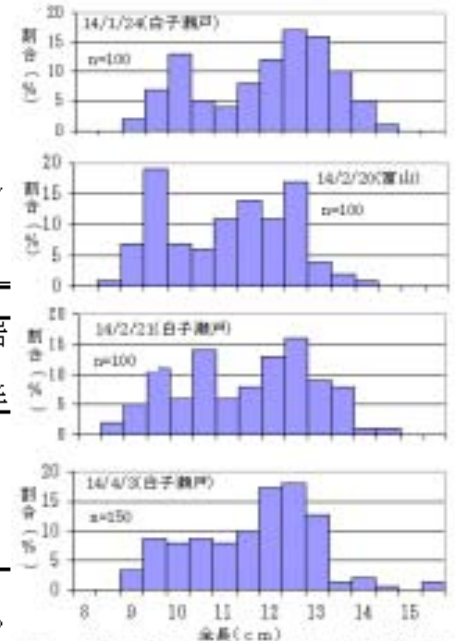


図2 平成14年1～4月に房総沿岸の定置網に入網したハリセンボンの体長組成

昨年秋以降の来遊状況を見ると来遊の始まった時期は、沖縄～鹿児島では9月以前、高知・和歌山・三重では11・12月、静岡～茨城では年明け後の1月中・下旬で、西日本ほど早い傾向がありました(図3)。また、大分(豊後水道)・愛媛・愛知(渥美外海)など、黒潮本流の影響を直接受けにくいところでは大量来遊が他県より遅れたり(2・3月)、来遊がほとんどないという状態でした。

県名	ハリセンボンが漁獲される主な漁具	来遊期間								多いときの漁獲量
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		
岩手										来遊なし
宮城										来遊なし
福島										漁獲中に少量確認
茨城	まき網・船ひき網									大量入網なし
千葉	定置網									15トン/網/日
神奈川	定置網									50～100kg/日
静岡	定置網									7.5トン/網/日
愛知										大量入網なし
三重	まき網・定置網									50トン/網/日
和歌山	定置網									数100トン/網/日
徳島	定置網									30～100kg/網/日
高知	まき網・定置網									20～100kg/網/日
愛媛	まき網・すくい網									200kg/網/日程度まで確認されているが、大量入網なし
大分										大量入網なし
宮崎	まき網・定置網									100トン/網/日
鹿児島	定置網									
沖縄										

図3 平成13年10月～14年4月における太平洋岸各県沿岸へのハリセンボンの来遊期間
図中の網掛け部分は、来遊があった期間を示す。その濃淡は来遊量の多い(濃)、少ない(淡)を示す。

4. 大量来遊の原因

かつて、冬から春の日本海沿岸へのハリセンボン大量打ち上げが、夏の対馬暖流と冬の季節風の輸送によるものであると推測したのは、昭和30年代当時、日本海区水産研究所にいた西村三郎博士でした。今回の房総沿岸への来遊原因は定かではありませんが、これまでの経過から産卵海域での数年にわたる大量発生と黒潮による輸送が深く関わっていると思われます。また、九州・四国地方では現在も来遊が続いていることから、房総沿岸域でも来遊が続く可能性があります。